

2023 年度事業報告

(自 2023 年 1 月 1 日 ～ 至 2023 年 12 月 31 日)

一般社団法人日本医療薬学会

2023 年は、山本康次郎氏が会頭となり、役員や委員会体制が 2 年度目を迎えた活動となった。また、3 月 18 日に開催された第 15 回定時社員総会后より、新たに 2023-2024 年度代議員として 336 名が就任した。

2020 年 1 月 28 日に指定感染症となった Covid-19 は、2023 年 5 月 8 日に第 5 類感染症に移行した。これにより、市中の活動が活発になり、本学会の活動も同様に活発となった。6 月 11 日に開催した第 6 回フレッシュャーズ・カンファランスはハイブリッド形式で実施したが、全参加者のうち約 7 割が現地参加し、全発表者のうち約 9 割が現地発表した。また、11 月 3 日から 5 日に仙台市で開催された第 33 回年会では、現地での参加者数が 4,754 名（全参加者数の約 46%）であり、会場内は多くの人で賑わい、盛会で活気に溢れた討論と良好なコミュニケーションが図られた。その一方で、オンデマンド配信を行った年会や研修会ではコロナ禍での実施時と比較し、参加者数に大きな変動は見られなかった。年会や専門薬剤師制度の座学研修はセッションやコンテンツ数が多く、一定期間にわたって視聴が可能なオンデマンド配信へのニーズが高く、会員サービスの重要なツールとなっていることを再認識した。また、本学会活動の将来を見据え、将来計画検討委員会の傘下に若手・中堅層のメンバーを中心に構成した専門薬剤師制度小委員会及び学術大会小委員会を発足させた。前者では専門薬剤師制度の喫緊の課題にフォーカスして検討を進め、後者では年会のあり方を中心に議論を進めた。両小委員会では、既存の委員会とは異なる新たなアイデアが検討され、今後の学会活動を展開する上での契機となった。

アフターコロナにおける学会活動を模索した年であったが、学術団体としての活発な討議の機会の提供、DX の活用、継続的な学術活動への参画の促進、専門薬剤師認定資格の取得の向上など、多くの課題を見出した一年でもあった。

2023 年度事業報告の概要は以下のとおりである。

〔1〕事業の部

1. 会員数 (2023 年 12 月 31 日現在)

正会員：13,896 名、 学生会員：254 名、 賛助会員：13 社・団体
名誉会員：29 名

2. 医療薬学専門薬剤師制度の認定数 (2024 年 1 月 1 日現在)

医療薬学専門薬剤師：1,577 名 (前年同日の認定数：1,612 名)

医療薬学指導薬剤師：846 名 (前年同日の認定数：854 名)

医療薬学専門薬剤師研修施設：340 施設 (前年同日の認定数：337 施設)

3. がん専門薬剤師制度の認定数 (2024 年 1 月 1 日現在)

がん専門薬剤師：786 名 (前年同日の認定数：730 名)

がん指導薬剤師：351名（前年同日の認定数：314名）

がん専門薬剤師研修施設：331施設（前年同日の認定数：338施設）

4. 薬物療法専門薬剤師制度の認定数（2024年1月1日現在）

薬物療法専門薬剤師：58名（前年同日の認定数：52名）

薬物療法指導薬剤師：62名（前年同日の認定数：54名）

薬物療法専門薬剤師研修施設：259施設（前年同日の認定数：260施設）

5. 地域薬学ケア専門薬剤師制度の認定数（2024年1月1日現在）

地域薬学ケア専門薬剤師（暫定認定）：63名（前年同日の認定数：44名）

地域薬学ケア専門薬剤師（がん）（暫定認定）：157名（前年同日の認定数：138名）

地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（基幹施設）：205施設

（前年同日の認定数：185施設）

地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（連携施設）：171施設

（前年同日の認定数：199施設）

6. 会議・委員会開催状況

社員総会2回（定時・臨時各1回）、定例理事会5回、理事会事前打合せ5回、予算会議1回、監事監査1回、代議員選挙管理委員会1回、役員候補者選挙管理委員会1回、会員委員会1回、専門薬剤師制度運営委員会2回、専門薬剤師制度運営委員会打合せ1回、専門薬剤師制度支援システム検討WG8回、専門薬剤師制度小委員会2回、専門薬剤師認定試験小委員会3回、医療薬学専門薬剤師認定委員会4回、がん専門薬剤師認定委員会2回、がん専門薬剤師試験小委員会3回、がん専門薬剤師能力向上小委員会3回、がん専門薬剤師研修小委員会3回、薬物療法専門薬剤師認定委員会1回、薬物療法集中講義企画・運営小委員会3回、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会4回、地域薬学ケア専門薬剤師委員会事前打合せ1回、地域薬学ケア専門薬剤師研修小委員会1回、地域薬学ケア・研修協力施設（細則1条5）の運用に係る検討WG1回、地域薬学ケア「学会発表・論文の審査基準の検討」WG1回、地域薬学ケア専門薬剤師症例報告の書き方WS事前打合せ1回、地域薬学ケア・連携研修に係る対応協議1回、地域薬学ケア指導薬剤師（がん）新設に係る検討WG1回、地域薬学ケア専門薬剤師制度2023年度マッチング説明会事前打合せ1回、広報・出版委員会2回、出版小委員会2回、JPHCS編集委員会1回、JPHCS編集委員会事前打合せ1回、臨床研究推進委員会1回、国際交流委員会2回、功績賞・奨励賞等選考委員会1回、学術関連賞選考委員会1回、日本医療薬学会賞等選考小委員会1回、医療薬学誌論文賞選考小委員会1回、医療薬学誌論文賞選考小委員会1回、JPHCS誌論文賞選考小委員会1回、Postdoctoral Award選考小委員会1回、企画・シンポジウム委員会1回、フレッシュャーズ・カンファレンス実行委員会1回、フレッシュャーズ・カンファレンスに係る打合せ5回、フレッシュャーズ活性化委員会3回、医療薬学学術委員会2回、2020年度医療薬学学術第1小委員会1回、2021年度医療薬学学術第1小委員会12回、2021年度医療薬学学術第2小委員会1回、2022年度医療薬学学術第2小委員会1回、2022年度医療薬学学術第3小委員会2回、2023年度医療薬学学術第1小委員会2回、年会運営実行小委員会1回、医療薬学誌に係る打合せ1回、年会長候補者推薦小委員会2回、日本薬剤師会「5疾病に対する薬局薬剤師のガイドライン（脳卒中）」作成協力依頼に係る打合せ1回、2024-2025年度役員候補者選挙当選者によ

る会合 1 回、学術大会小委員会打合せ 1 回、がん専門薬剤師研修ガイドライン改定に係る打合せ 1 回、がん専門薬剤師集中教育講座 合同協議 2 回、がん専門薬剤師集中教育講座に係る打合せ 1 回、第 33 回年会組織委員会 1 回、第 34 回年会コンベンション会社選考に係るヒアリング 2 回、第 34 回年会打合せ 1 回。

7. 各委員会活動報告

(1) 総務委員会

- 1) 2024 年度事業計画の草案を検討した。
- 2) ポスト新型コロナウイルス感染症期における学会運営を検討した。
- 3) 働き方改革・新型コロナウイルスへの感染対策等を念頭にいたした学会運営・会議等の電子化を推進した。
- 4) 諸規程の整備・定款見直しの必要性を検討した。
- 5) 小委員会の活動
 - ①年会運営実行小委員会
年会運営に関する必要な事項を共有・検討した。
 - ②年会長候補者推薦小委員会
第 37 回日本医療薬学会年会（2027 年開催）の年会長候補者として、大井 一弥（鈴鹿医療科学大学 教授）を選出した。

(2) 財務委員会

- 1) 2022 年度決算報告書を取りまとめた。
- 2) 予算の執行状況と適切性を監視した。
- 3) 年会の組織委員会に参画し、年会長と理事会及び学会事務局との連携を推進した。
- 4) 2024 年度予算案を作成した。

(3) 広報・出版委員会

- 1) 広報用リーフレットを改訂した。
学生や若手薬剤師の新規入会促進への活用を目的とした学会紹介用リーフレットを改訂し、全国の薬学部をはじめ関連機関へ配布した。
- 2) ホームページの全面改訂について検討した。
ホームページのリニューアルに向け、制作会社を選定した。コンペには 3 社が参加し、総合的に評価した結果、1 社を採用することに決定した。
- 3) 「病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法」の改訂に向け、編纂方針等について検討を進めた結果、具体的な内容については出版小委員会を編成し検討を行うこととなった。
- 4) 出版小委員会（委員長：矢野良一先生）における活動。
「病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法」の改訂にあたり、構想や編纂方針、内容の各論について具体的な協議を開始した。

(4) 企画・シンポジウム委員会

- 1) 医療薬学公開シンポジウムの開催

第 89 回から第 92 回までの 4 回の公開シンポジウムの開催および開催支援を行った。

- ① 第 89 回 秋田市、平泉達哉（能代厚生医療センター）
開催日 2023 年 11 月 18 日（土）、秋田拠点センターALVE 多目的ホール
テーマ 『チーム医療における今後の薬剤師業務展開の可能性を探る』
 - ② 第 90 回 下野市、今井 靖（自治医科大学附属病院）
開催日 2023 年 11 月 18 日（土）、自治医科大学医学部教育研究棟講堂
テーマ 『地域医療を“くすり”から支える・課題に挑む』
 - ③ 第 91 回 長崎市、大山 要（長崎大学病院）
開催日 2023 年 11 月 18 日（土）、長崎大学医学部記念講堂
テーマ 『臨床研究に一步踏み出そう～薬剤師の楽しみを知るために～』
 - ④ 第 92 回 高松市、小坂信二（香川大学医学部附属病院）
開催日 2023 年 12 月 2 日（土）、かがわ国際会議場
テーマ 『新しい時代の臨床薬学教育に向けて』
- 2) 2024 年度の医療薬学公開シンポジウムの開催方法・計画の検討
2024 年度の公開シンポジウムの開催方法・計画等について検討した

(5) フレッシュヤーズ活性化委員会

- 1) 第 6 回フレッシュヤーズ・カンファランスを開催した。
 - ・ 実行委員長 内田まやこ（同志社女子大学薬学部 教授）
 - ・ 日程 2023 年 6 月 11 日（日）
 - ・ 会場 同志社女子大学 京田辺キャンパス（京都府京田辺市）
 - ・ 開催形式 現地と WEB 開催（ライブ配信）とのハイブリッド
- 2) 第 7 回フレッシュヤーズ・カンファランスの実行委員長を決定した。
 - ・ 実行委員長 根岸健一（北里大学薬学部 教授）
 - ・ 開催予定日 2024 年 6 月 15 日（土）、16 日（日）
 - ・ 会場 北里大学 白金キャンパス（東京都港区）
 - ・ 開催形式 現地開催

(6) 会員委員会

- 1) 厚労科研における「病院薬剤師のキャリアパス調査」に協力し、得られた調査結果をもとに、本学会や会員の活動に寄与するような提言案を検討した。
- 2) 会費の遡及納入に係る嘆願書及び休会届を受け付けて審議し、対応を検討の上、理事会に諮った。

(7) 医療薬学編集委員会

- 1) 「医療薬学」第 49 巻 1 号～12 号を編集・発行した。
 - ① 2023 年 1 月から 12 月までに 90 編（うち非学会員から 9 編）の論文投稿があり、同期間内に 50 編を採択した（採択率：56%）。
 - ② 第 49 巻 1 号～12 号に 44 編の論文を掲載した（昨年度 79 件）。
内訳：総説 2 編、一般論文 14 編、ノート 27 編、ミニレビュー 1 編（うち英 1 論文は 1 2 編）

- 2) 投稿規定および執筆規定、執筆ガイドライン、見本資料の改訂案をとりまとめた。
- 3) 本誌の編集に係る現状の情報共有と今後の方針を議論した。投稿数ならびに査読者の増加施策、オンラインデータベースへの収載等、本誌の活性化について意見交換し、今後具体策を講じて課題の改善を図ることとした。また、査読判定の内規の整備や投稿システムの設定見直し等、論文審査をより円滑に実施するための環境整備についても検討した。

(8) JPHCS 編集委員会

- 1) 英文誌 Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences (JPHCS) の第 9 巻(2023 年)を編集・発行した。
 - ① 第 9 巻(2023 年)に 50 編の論文を掲載した。
内訳 : Research article 32 編、Case report 12 編、Short Report 6 編
 - ② 2023 年 1 月から 12 月までに 152 編の論文投稿を受付けた。
内訳 : Research article 116 編、Case report 19 編、Review 6 編、Short report 11 編
 - ③ 採択率は 38.1%であった。
- 2) 領域が広範化している投稿論文の査読体制を充実させるため、2023 年 1 月 1 日より 10 名を本委員会委員として追加委嘱した。
- 3) 日本語版投稿手順マニュアルの再整備を行った。
- 4) 2023 年 6 月、ジャーナルインパクトファクター 1.0 を取得した。また、その広報とあわせて投稿や査読者登録の呼びかけを行った。

(9) 専門薬剤師制度運営委員会

- 1) 各専門薬剤師制度間の整合化や情報の共有
医療薬学専門薬剤師制度の更新保留者に対する過渡的措置の適用期間の延長の取扱い、地域薬学ケア専門薬剤師・同指導薬剤師の英語表記の制定、専門薬剤師支援システムの構築にあたっての運用ルールの確認、地域薬学ケア専門薬剤師の暫定認定の延長に係る検討、各制度の認定制度規程、細則の改正、2024 年度の各制度の申請スケジュール等を整理した。
- 2) 小委員会の活動
 - ① 薬物療法集中講義企画・運営委員会
2023 年専門薬剤師認定取得のための薬物療法集中講義【WEB 開催(オンデマンド配信)(2023 年 7 月 3 日(月)~8 月 31 日(木))】の企画・運営を行った。
 - ② 専門薬剤師認定試験小委員会
2023 年度専門薬剤師認定試験を実施した。
試験日 : 2023 年 7 月 30 日(日)
申請者数 50 名、受験者数 50 名、合格者数 40 名(合格率 80.0%)
 - ③ 専門薬剤師制度支援システム検討 WG
専門薬剤師制度支援システムの構築を進めた。2024 年度後期の稼働を目指す。

(10) 医療薬学専門薬剤師認定委員会

- 1) 医療薬学専門薬剤師制度の専門薬剤師、指導薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。
 - ① 医療薬学専門薬剤師：新規認定（正規）40名、暫定認定から正規認定への移行12名、新規認定（暫定）11名、更新認定324名、更新保留1名
 - ② 医療薬学指導薬剤師：新規認定44名、更新認定156名
 - ③ 医療薬学専門薬剤師研修施設：新規認定33施設（基幹18施設、連携15施設）、更新認定 基幹施設78施設
- 2) 医療薬学専門薬剤師認定制度規程細則の一部変更を検討した。

(11) がん専門薬剤師認定委員会

- 1) がん専門薬剤師、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師研修施設の新規認定及び更新認定は、次の通りであった。
 - ①がん専門薬剤師：新規認定49名、更新認定126名、更新保留3名
 - ②がん指導薬剤師：新規認定33名、更新認定30名
 - ③がん専門薬剤師研修施設：新規認定26施設（基幹16施設、連携10施設）更新認定21施設（基幹20施設、準ずる施設1施設）
- 2) 教育啓発活動として、第33回年会でシンポジウムを開催、日本病院薬剤師会との合同でがん専門薬剤師集中教育講座をオンラインで開催、第15回日本がん薬剤学会学術大会において教育セミナーを共催、がん専門薬剤師全体会議はハイブリッドで開催した。症例のスキルアップセミナー、アドバンスト研修会はそれぞれ2月にそれぞれWEB開催した。
- 3) 小委員会の活動
 - ① がん専門薬剤師試験小委員会（3回開催）

がん専門薬剤師認定試験問題を作成し、2023年7月8日（土）に認定試験を実施した。受験者69名中46名（66.7%）を合格とした。
 - ② がん専門薬剤師研修小委員会（3回開催）
 - i) がん専門薬剤師集中教育講座をオンラインで開催した。（日本病院薬剤師会と合同開催）2023年11月1日～2023年12月22日（受講申込者は、2,400名）。
 - ii) 他学会が実施する講習会・教育セミナーの受講単位を認定した。
 - iii) がん専門薬剤師の研修ガイドライン及びコアカリキュラムを更新した。
 - iv) 第2回がん介入症例の書き方スキルアップセミナー（WEB開催）を2023年2月11日（土）に開催した。
 - ③ がん専門薬剤師能力向上小委員会（3回開催）
 - i) 第9回がん専門薬剤師アドバンスト研修会（WEB開催）を2023年2月25日（土）に開催した。
 - ii) 第10回がん専門薬剤師全体会議を2023年5月13日（土）にハイブリッドで開催した。（札幌・現地参加66名、WEB参加418名）

(12) 薬物療法専門薬剤師認定委員会

- 1) 薬物療法専門薬剤師制度の専門薬剤師、指導薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。

- ① 薬物療法専門薬剤師：新規認定 15 名、更新認定 4 名
 - ② 薬物療法指導薬剤師：新規認定なし、更新認定 8 名
 - ③ 薬物療法専門薬剤師研修施設：新規認定 12 施設（基幹 10 施設、連携 2 施設）
更新認定（基幹 28 施設）
- 2) 第 33 回年会において、薬物療法専門薬剤師ワークショップ「薬物療法専門薬剤師に必要な症例報告を書いてみよう！」を開催した。（参加者：30 名）
- 3) 小委員会の活動
単位認定の対象となるセミナーの申請を受け付け審査・認定を行った。
- ① 薬物療法集中講義企画・運営小委員会との合同企画として、第 33 回年会でシンポジウムを企画し実施した。
 - ② 薬物療法専門薬剤師領域の講習会・教育セミナーに係る単位認定審査を行った。
 - ③ 薬物療法専門薬剤師研修ガイドラインの確認を行い、今年度は改訂しないこととした。
 - ④ 第 33 回年会において開催された薬物療法専門薬剤師ワークショップのファシリテーターとして協力した。
- (13) 地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会
- 1) 地域薬学ケア専門薬剤師制度の専門薬剤師、研修施設の認定を行った。今年度の各認定数は次のとおり。
 - ① 地域薬学ケア専門薬剤師新規暫定認定：6 名
 - ② 地域薬学ケア専門薬剤師「がん」新規暫定認定：10 名
 - ③ 地域薬学ケア専門薬剤師研修施設：新規認定 21 施設（基幹 10 施設、連携 11 施設）
 - 2) 第 33 回年会においてシンポジウム「地域薬学ケア専門薬剤師の現在と今後」を開催した。
 - 3) 地域薬学ケア専門薬剤師制度における研修者と基幹施設のマッチングに関する WEB 研修会として「地域薬学ケア専門薬剤師制度における連携研修マッチングに係る全国説明会」を日本薬剤師会・都道府県薬剤師会と協力して実施した。
 - 4) 各都道府県薬剤師会との連携に基づき研修希望者と研修施設のマッチングを実施した。
 - 5) 地域薬学ケア専門薬剤師制度の認定要件や運用を検討した。特に、4つの重要課題を取り上げ、課題ごとにワーキンググループを編成して検討を進めた。
 - 6) 地域薬学ケア専門薬剤師研修小委員会の活動
 - ① 「症例報告の書き方ワークショップ」を実施した。
 - ② 他団体の講習会について、単位申請を受け付けて審査を実施した。
- (14) 功績賞・振興賞選考委員会
功績賞、振興賞の授賞該当者なし。
- (15) 学術関連賞選考委員会
- 1) 日本医療薬学会賞等選考小委員会、Postdoctoral Award 選考小委員会、医療薬学誌論文賞選考小委員会及び JPHCS 誌論文賞選考小委員会の各委員会にて一次選考された候補者について、二次選考を行い、理事会に諮り下記の受賞者、受賞論文を決定した。
 - 2) 2024 年度の各学術関連賞の応募書式を改訂し、受賞歴の情報や応募者と推薦人の関係性が分かりやすくなるよう整備した。

- ① 日本医療薬学会賞（受賞者2名）
- ・ 大谷 壽一 （慶應義塾大学医学部）
研究題目 薬物相互作用の個人差に関する医療薬学研究
 - ・ 崔 吉道 （金沢大学附属病院）
研究題目 薬物体内動態制御と薬物療法の個別最適化を目指したリバーストランスレーショナル研究
- ② 学術賞（受賞者1名）
- ・ 池末 裕明 （地方独立行政法人神戸市立医療センター中央市民病院）
研究題目 がん薬物療法における多職種協働による臨床薬剤業務のアウトカム評価に関する研究
- ③ 奨励賞（受賞者3名）
- ・ 岡田 直人 （山口大学医学部附属病院）
研究題目 抗菌薬適正使用推進による患者アウトカム向上を指向した医療薬学研究の実践
 - ・ 八木 達也 （浜松医科大学医学部附属病院）
研究題目 PK-PD 理論およびデータサイエンスに基づく Drug-drug / Drug-condition interactionに関する臨床薬理研究
 - ・ 日笠 真一 （兵庫医科大学病院）
研究題目 最適な薬物療法を HIV 感染症患者に提供するための臨床研究
- ④ Postdoctoral Award（受賞者10名）
- ・ 糸原 光太郎 （神戸大学医学部附属病院）
学位論文題目 臓器移植における免疫抑制薬の適正使用を目指したファーマコメトリクス研究
 - ・ 内田 美月 （名古屋大学医学部附属病院）
学位論文題目 精神疾患の情動・認知機能におけるグリア型グルタミン酸トランスポーターの機能的役割に関する研究
 - ・ 梅村 圭祐 （京都大学医学部附属病院）
学位論文題目 細胞内動態制御を基盤とした核酸医薬品開発に関する研究
 - ・ 莊司 智和 （山梨大学医学部附属病院）
学位論文題目 薬剤耐性による日本の医療施設における経済的負荷の検討
 - ・ 鈴木 光路 （浜松医科大学医学部附属病院）
学位論文題目 頭頸部がん患者におけるトラマドールとその脱メチル化代謝物の光学異性体の血中動態解析に基づく臨床薬理研究
 - ・ 鈴木 秀隆 （国立がん研究センター東病院）
学位論文題目 膵がん悪液質に関連する因子に関する検討
 - ・ 鈴木 亮平 （独立行政法人国立病院機構東名古屋病院）
学位論文題目 メディケーションエラーの分析及び検証による医療安全への貢献
 - ・ 田代 渉 （大分大学医学部附属病院）
学位論文題目 Clostridioides difficile 感染マウスモデルを用いた糞中動態に基づく治療薬の有効性評価法の構築

- 中澤 孝文 (千葉大学医学部附属病院)
学位論文題目 消化器外科領域における薬物療法の有効性及び安全性に関する研究
 - 松金 良祐 (九州大学病院)
学位論文題目 免疫チェックポイント阻害薬使用患者の癌種横断的レジストリの構築、ならびに治療効果・免疫関連有害事象発現の予測に関する研究
- ⑤ 医療薬学誌論文賞 (受賞論文3編)
- 論文題目 免疫チェックポイント阻害薬の有効性及び安全性に対する抗菌薬使用の影響
著者 南島拓矢, 肥田裕丈, 宮崎雅之, 今俊介, 千崎康司, 永井拓, 山田清文
(医療薬学 48, No. 5, 173-193)
 - 論文題目 新生児におけるバンコマイシン母集団薬物動態モデル 13 種の比較検討
著者 大橋隼人, 花井雄貴, 横尾卓也, 植草秀介, 松尾和廣, 草野歩, 坂本真紀, 松本高広
(医療薬学 Vol. 48, No. 8, 319-330)
 - 論文題目 病棟常駐薬剤師によるリコンビナント・トロンボモデュリンの適正使用推進と感染症性 DIC 離脱率の改善
著者 山田峻史, 眞鍋貴行, 丹保亜希仁, 菅谷香緒里, 田原克寿, 山下恭範, 中馬真幸, 田崎嘉一
(医療薬学 Vol. 48, No. 11, 481-490)
- ⑥ JPHCS 誌論文賞 (受賞論文3編)
- 論文題目 Pharmaceutical intervention for adverse events improves quality of life in patients with cancer undergoing outpatient chemotherapy
著者 Hironori Fujii, Yukino Ueda, Chiemi Hirose, Koichi Ohata, Kumiko Sekiya, Mika Kitahora, Shiori Sadaka, Senri Yamamoto, Daichi Watanabe, Hiroko Kato-Hayashi, Hiroto Iihara, Ryo Kobayashi, Miho Kaburaki, Nobuhisa Matsuhashi, Takao Takahashi, Akitaka Makiyama, Kazuhiro Yoshida, Hideki Hayashi and Akio Suzuki
(JPHCS 2022 8:8)
 - 論文題目 Usefulness of criteria for intraoperative Management of Postoperative Nausea and Vomiting
著者 Satoshi Nagase , Masaharu Imaura , Mizuki Nishimura , Kohei Takeda , Mari Takahashi, Hideki Taniguchi, Tomoyuki Sato and Hiroshi Kanno
(JPHCS 2022 8:11)
 - 論文題目 Effectiveness of pharmacist intervention for deprescribing potentially inappropriate medications : a prospective observational study

著 者 Takeshi Kimura , Misa Fujita, Michiko Shimizu, Kasumi Sumiyoshi,
Saho Bansho, Kazuhiro Yamamoto, Tomohiro Omura and Ikuko Yano
(JPHCS 2022 8:12)

(16) 医療薬学教育委員会

フレッシュャーズ・カンファランスにおいて、医療薬学教育委員会の企画を行えるようフレッシュャーズ活性化委員会と調整を行った。次回の第7回フレッシュャーズ・カンファランスでは、学生会員や正会員が本学会の活動に継続して参加できるような企画を計画した。

(17) 国際交流委員会

1) 第33年会における英語セッションの企画

年会1日目である2023年11月3日(金)午前、International Session (Oral) Award session 1&2を、午後、国際シンポジウム1&2を企画・運営した。また、International Session (poster) のプログラム編成を行った。

・シンポジウム『Messages for Pharmaceutical Health Care and Sciences in the next decade 1 & 2』

第1部 中国、韓国、タイ、日本各1名で、合計4名の講師の講演

第2部 日本人5名による英語での講演

・International Session (Oral) Award session 1 & 2: 10題(カナダ1題)の演題から2題をAwardとして選出した。International Session (poster) では、22題(中国1題、韓国3題、カナダ2題を含む)の発表があった。

2) 年会における国際交流事業の運営方針(申送書)を作成し、2023年12月の理事会で協議した。

3) 海外研修等制度について

・2023年度海外研修等助成員の募集を行い、下記の1名を選考した。

山本 和宏(神戸大学医学部附属病院薬剤部)

・2024年度海外研修等助成員の募集要項を作成し、学会誌及び学会HPで募集案内を行った(応募期限:第1期 2024年2月9日、第2期 2024年6月10日、第3期 2024年11月8日)。

(18) 医療薬学学術委員会

1) 各医療薬学学術小委員会の活動

① 医療薬学学術第4小委員会(米澤淳委員長)(2019年4月～)

研究テーマ:医療現場における薬物相互作用マネジメント能力育成に関する研究

一昨年の2月に本学会ホームページで公開した「パキロビッド(ニルマトレルビル/リトナビル)の薬物相互作用マネジメントの手引き 第1.2版(2022年6月)」を更新した。同様にCOVID-19治療薬の「ゾコーバ(エンソトレルビル)の薬物相互作用マネジメントの手引き 第1版(2023年1月19日)」を公開した。この手引きは、一般社団法人日本感染症学会「COVID-19に対する薬物治療の考え方」でも引用されるなど、COVID-19治療において重要な役割を果たした。また、第33回年会では、シンポジウム「いま、あらためて薬物相互作用マネジメントを議論しよう～手引き・症例検討・展望～」を開催した。

② 2021 年度医療薬学学術第 1 小委員会（須永登美子委員長）（2021 年 6 月～）

研究テーマ：臨床業務における薬剤師による有害事象報告教育基盤の構築

- ・各施設で視聴できる有害事象に関連する Case report を作成するための教育コンテンツを作成した。
- ・全国の本学会会員（病院薬剤師）と本小委員が所属する 3 施設において、薬剤師における有害事象報告に対する意識と Case report の教育体制についてのアンケート調査を実施した。
- ・「臨床現場における有害事象の評価」をメインテーマとし、外部講師を招いて勉強会を開催した。
- ・3 施設合同症例発表会（WEB 開催）を開催した。
- ・3 施設の研究分担者が中心となり、報告された有害事象を評価し、Case report 作成を行った結果、本委員会活動中においては、昭和大学藤が丘病院合計 9 報の Case report（アクセプト 5 報、学会発表 4 報、投稿中 1 報）、川崎市立多摩病院合計 4 報（学会発表 4 報、投稿中 2 報）、日立総合病院合計 4 報（アクセプト 1 報、学会発表 3 報）の成果を発表した。本委員会は、3 年間の研究計画に基づいて活動し目的を達成した。

③ 2021 年度医療薬学学術第 2 小委員会（渡邊裕之委員長）（2021 年 6 月～）

研究テーマ：免疫チェックポイント阻害薬の多施設共同患者レジストリを用いた、免疫関連有害事象の早期発見に資する研究

がん患者の高齢化に伴い 75 歳以上に対し、免疫チェックポイント阻害薬を使用する例が非常に多くなっている。しかしながら、肺癌診療ガイドライン 2022 年版（CQ63-65）、高齢者のがん薬物療法ガイドライン（CQ9）において高齢者集団における安全性の評価は明らかになっていないと記載されている。実臨床下の多施設データにおいて高齢者、非高齢者の安全性を評価することは、高齢がん患者の診療において非常に有益な情報であると考え、研究課題として「高齢の肺がん患者における免疫チェックポイント阻害薬の安全性」とすることを決定した。予備検討や多施設共同レジストリ構築用の CRF（Case Report Form）を作成した。

各施設調査者による症例集積を実施した結果、5 つの施設で計 480 症例が集積され、多施設共同レジストリとして登録された。進行・再発に対する免疫チェックポイント阻害療法（ICI 治療）においては 75 歳以上の高齢者においても、若年者と同様の無増悪生存期間が得られ、有害事象である irAE の累積発現率もほぼ同等であることが明らかになった。全身状態が保たれた患者であれば、75 歳以上であっても積極的に ICI 治療を推奨できると考えられた。一方で、durvalumab 地固め療法においては 75 歳以上の高齢者で有効性が担保されない可能性が示されたことに加え、重症 irAE を含め irAE は同様に発現する可能性が明らかになった。75 歳以上の患者に本治療を導入する際には、より一層の副作用マネジメントが必要である。その他、各患者群で生じた irAE の詳細な比較や、irAE に伴う治療中断の割合等は、投稿準備中の論文に詳細に記している。本学術第 2 小委員会における免疫関連有害事象の多施設共同研究により、これまで明らかではなかった、実臨床における高齢非小細胞肺癌患者の ICI 治療安全性プロファイルが明らかになり、今後高齢者のレジメン選択における重要なエビデンスとなったと考える。

④ 2022 年度医療薬学学術第 1 小委員会（鈴木賢一委員長）（2022 年 6 月～）

研究テーマ：病院・薬局薬剤師がシームレスで行う、がん薬物治療の副作用マネジメント

ト支援体制の構築

- ・「東京都薬剤師会主催がん薬物療法の服薬支援のための研修会」に参加した薬局薬剤師62名を対象とし、特にがん支持療法に関わる薬局から医療機関へのフィードバックの手段や問題点に着目し、がん領域のトレーシングレポート作成上の問題点等に関するアンケートを実施した。昨今はトレーシングレポートの運用が浸透しつつあるが、がん領域での浸透は未だ不十分であり、さらなる有効利用に繋がる問題点等を把握することができた。本調査結果をもとに第33回年会において、演題名「抗がん薬用トレーシングレポートの普及と活用への課題～日本医療薬学会学術第一小委員会～」として口頭発表した。
- ⑤ 2022年度医療薬学学術第2小委員会（舘知也委員長）（2022年6月～）
- 研究テーマ：WITH/POST 新型コロナウイルス時代のオンライン研修教育のあり方
- ・昨年度から検討を行ってきた薬剤師のための効果的なオンライン研修のあり方（一方向型オンライン研修教育と同時双方型オンライン研修教育のメリットおよびデメリットを含む）を整理した。
 - ・薬剤師のための効果的なオンライン研修のあり方ガイドブックの発刊「薬剤師のための効果的なオンライン研修のあり方ガイドブック」の原稿を作成した。2024年度に発刊する予定である。
 - ・薬剤師のための効果的なオンライン研修のあり方を基盤とした同時双方型オンライン研修教育（セミナーおよびワークショップ）のモデル例を構築した。今年度の残りの期間で、構築した研修教育を実施し、その形成的評価を行う予定である（2024年2月に実施予定）。
- ⑥ 2022年度医療薬学学術第3小委員会（矢野良一委員長）（2022年6月～）
- 研究テーマ：症例検討による省察の推進と教育への展開を目指した調査研究
- ・薬剤師による症例検討会の実態や症例検討会に対する薬剤師の認識を明らかにするため、本学会会員が所属する医療施設及び会員個人を対象としたアンケート調査を実施した。約1,700件の会員所属施設に文書でアンケートへの協力依頼を発送し、最終的に900件以上の回答があった。現在データのクリーニングが完了し解析を進めている。
 - ・文献調査（スコーピングレビュー）として、国内外で医療関連職における症例検討を取り扱った研究論文を網羅的に収集してレビューした結果、薬剤師のみならず医療従事者による症例検討会の実態や効果的な運営方法について検討した研究は乏しいことが明らかとなった。この成果は板井委員が中心となり第33回年会において一般演題・ポスター「医療従事者による症例検討会に関するスコーピングレビュー」として発表した。
- ⑦ 2023年度医療薬学学術第1小委員会（青森達委員長）（2023年6月～）
- 研究テーマ：電子添付文書および添文ナビの利活用実態と、その普及に向けた調査研究
- 添文ナビアプリの導入前後における医薬品情報へのアクセスに関する質的・量的変化および添文ナビや電子添付文書の有用性や課題に関し調査するためのアンケートの整備を検討した。先行して、本小委員会のメンバーが所属する施設の薬剤師・看護師を対象としたアンケート結果をもとに文言等を修正し、アンケートフォームを完成させた。
- ⑧ 2023年度医療薬学学術第3小委員会（百賢二委員長）（2023年6月～）
- 研究テーマ：院内製剤の全国実態調査と医療ビッグデータを用いた医薬品開発シーズの

探索

日本薬剤学会臨床製剤 FG とのコラボレーションを開始するための土台整備として、日本薬学会第 144 年会における本学会、日本薬剤学会、日本薬学会 3 学会合同のジョイントシンポジウム（医療に貢献する院内製剤：患者・臨床・企業のニーズを探り、情報を集約する—日本医療薬学会、日本薬剤学会、日本薬学会、3 学会ジョイントシンポジウム—）を行う。また、本小委員会と日本薬剤学会臨床製剤 FG のコラボレーションの企画として、臨床製剤の普及、医薬品としての開発を目指した今後の活動について薬剤学誌の「座談会」のカテゴリーで原稿が掲載される予定である。

2) 2024 年度に向けた医療薬学学術小委員会の新規募集

2024 年 4 月（予定）より発足する医療薬学学術小委員会の研究テーマを以下のように設定し、公募手続を進めた。

- ①本学会として取り組むべき、または推進すべき活動
（例）薬剤師職能・専門性の将来展開と学術的基盤の醸成、他学会等との連携推進、研修教育・情報共有のあり方、地域医療連携など
- ②各領域、疾患群における臨床薬学のエビデンス構築につながる活動
（例）プレジジョン・メディシンに関する研究、PBPM を活用したアウトカム・エビデンス、処方箋鑑査・疑義照会のチェックポイントマニュアル作成のための活動など
- ③多施設共同研究、分野連携型の医療薬学研究の基盤整備に関する活動
（例）患者レジストリのシステム整備、トランスレーショナルリサーチ及びリバーstroトランスレーショナルリサーチの体制整備、医療ビッグデータの利活用など
- ④医療 DX 推進に関する活動
（例）電子処方箋に関する調査研究、電子化された添付文書の活用、IoT の利活用に関する調査研究、電子データの標準化・共有化に関する調査研究など

(19) 臨床研究推進委員会

1) 臨床研究セミナーの開催

- ①第 3 回臨床研究セミナー『観察研究を始めてみよう』を 2023 年 4 月 16 日（日）にハイブリッド開催した。
- ②第 4 回臨床研究セミナー『臨床研究を着想し、発表しよう』を 2024 年 4 月 14 日（日）にハイブリッド開催で企画した。

2) 年会での企画

- ① 第 33 回年会においてシンポジウム『優れた研究能力と高い専門性を活用し患者アウトカムを改善する！』を企画した。
- ② 第 34 回年会においてシンポジウム『繋がりが生み出す一般病院・保険薬局薬剤師の研究実践の力』を演題登録した。

(20) 選挙制度委員会（代議員選挙管理委員会、代議員候補者推薦委員会）

1) 2023-2024 年度代議員の決定

2023 年 2 月 16 日から 3 月 7 日を投票期間とした 2023-2024 年度代議員選挙により 336 名の当選者が決定し、第 15 回定時社員総会の終結時より就任した。

2) 2024-2025 年度役員候補者の決定

2024-2025 年度役員候補者選挙は 9 月 12 日に公示され、11 月 2 日から 16 日までの投票を経て、理事候補 11 名、監事候補 1 名の当選者が決定した。推薦役員候補者と合わせて第 16 回定時社員総会において選任決議が実施される。

(21) 利益相反マネジメント委員会

- 1) 利益相反 (COI: Conflict of interest) の申告対象者の利益相反状態を確認した。
 - ・本学会の利益相反マネジメント規程に基づき、対象者に対し自己申告書の提出を依頼し (2023 年 9 月 1 日)、対象者 273 名全員から提出を得、利益相反マネジメント委員会において当該規定に則り利益相反の状況を確認した。
 - ・数名の利益相反の申告があったが、疑義もしくは社会的・法的問題に抵触するような重大な利益相反は認められず、その旨、理事会に報告した (2023 年 12 月 27 日)。
- 2) 申告書類の保管管理を行った。
 - ・提出された申告書は事務局がドロップボックスで保管、利益相反マネジメント委員会が利益相反の状況をドロップボックス上で確認し、事務作業を効率化した。
 - ・なお、ドロップボックスはアクセス権を限定し事務局にて厳格に管理している。

(22) 日本薬系学会連合への協力

薬系学会による連合組織の設立に向け、日本薬学会と協働して各薬系学会への働きかけや説明会の企画及び開催を進めた。日本薬系学会連合は 2023 年 7 月 3 日の設立総会を経て発足し、本学会は同連合に加盟した。なお、同連合の副会長及び理事として、本学会より選出されている。

(23) 日本学術会議への参画

日本学術会議「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の提案募集に「患者主体的医療体制の実現とそれを支えるヘルスリテラシー教育体制を構築」を応募した結果、採択され、日本学術会議の提言「未来の学術振興構想 (2023 年版)」に掲載された。

(24) 人事委員会

2023 年 9 月及び 10 月に 2 名の事務局職員 (契約職員) を採用した。

8. 年会 (第 33 回日本医療薬学会年会)

テーマ 『医療薬学のこの先 12 年へのメッセージ』

年会長 三浦 昌朋 (秋田大学大学院医学系研究科薬物動態学講座 教授)

開催日 2023 年 11 月 3 日 (金・祝)～5 日 (日) ※現地開催

2023 年 11 月 21 日 (火)～2024 年 1 月 19 日 (金) ※オンデマンド配信

1) 事業内容

年会長講演	1 題
会頭講演	1 題
特別講演	4 題

教育講演	1 題
日本医療薬学会 学会賞・学術賞・奨励賞受賞講演	6 題
日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演	10 題
特別企画シンポジウム	1 セッション (5 題)
International Symposium (国際シンポジウム)	2 セッション (9 題)
医療薬学会委員会企画シンポジウム	4 セッション
公募シンポジウム	66 セッション (320 題)
市民公開講座	1 セッション
ワークショップ	1 セッション
一般演題	1,479 題
1) 口頭	376 題 (うち優秀演題候補 40 題)
2) ポスター	1,103 題
International Session	34 題
1) Oral	10 題 (うち会員の 9 題が優秀演題候補)
2) Poster	24 題
共催セミナー	26 セッション
日本薬科機器協会 ワークショップ	
企業展示	29 社
◆ 一般参加者数	10,313 名

2) 事業成果

第 33 回日本医療薬学会年會を 2023 年 11 月 3 日(金)から 5 日(日)の 3 日間、宮城県仙台市・仙台国際センターと東北大学百周年記念会館川内萩ホールを会場に現地開催し、その後 2023 年 11 月 21 日(火)から 2024 年 1 月 19 日(金)までオンデマンド配信を行った。

講演要旨集は電子抄録集「抄録集アプリ」として、現地用にアプリ版とオンデマンド配信用に WEB 版(印刷可能)の 2 種類用意した。アプリ版は現地でプログラム検索、抄録閲覧、自身のスケジュール管理を簡単にできるようにし、使用頻度の高いアイコンを上部へ、さらに色分けして大きくする工夫を行った。

コロナの終息に伴い第 32 回年會から現地開催を再開しているが、第 32 回年會の現地参加者数が 2,455 名(全参加者の 24%)であったのに対し、本年會では 4,754 名と、全参加登録者 10,313 名の約半数(46%)が現地参加し、徐々にコロナ禍前の環境に戻る傾向がみられた。本年會への総参加者は、参加登録者 10,313 名と招待者 44 名を合わせて、計 10,357 名であった。

本年會のメインテーマを「医療薬学のこの先 12 年へのメッセージ」にした。

特別講演 1 では文部科学省高等教育局医学教育課の大久保正人先生に「大きく変貌する社会で活躍する薬剤師」、特別講演 2 では秋田大学大学院医学系研究科血液腎臓膠原病内科学講座の高橋直人先生に「経口薬で白血病を治す—CML に対する分子標的療法の挑戦」、特別講演 3 では東京大学大学院薬学系研究科の楠原洋之先生に「トランスポーター介在性薬物相互作用の定量的予測と臨床研究」、特別講演 4 では獨協医科大学精神神経医学講座の古郡規雄先生に「精神科領域の個別化医療」をご講演頂いた。また教育講演では、福井県済生会病院内科の元雄良治先生に「がんサポーターケアにおける医療用漢方製剤の役割とエ

ビデンス」をご講演頂いた。

市民公開講座は、秋田大学医学部衛生学・公衆衛生学講座の野村恭子先生に「人生 100 年時代の健康を考える：食事と運動の最新学術研究エビデンス」をご講演頂き、市民のかた 105 名にご講演頂いた。

特別企画シンポジウムとして、札幌医科大学附属病院の福土将秀先生、弘前大学医学部附属病院の新岡丈典先生に「Precision dosing のための医療技術の開発拡充を目指して」をご企画して頂き、4 名の先生方から医療技術の開発を目指した取り組みについてご講演頂き、ご討論頂いた。公募シンポジウムには 111 件の応募があり、選考委員による選考の結果 66 件を採択した。本学会の委員会企画として、がん専門薬剤師認定委員会、臨床研究推進委員会、薬物療法集中講義企画・運営小委員会、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会の 4 つの委員会から 1 つずつシンポジウムが企画され、国際交流委員会から International Symposium として、「Messages for Pharmaceutical Health Care and Sciences in the Next Decade 1 と 2」の 2 セッションが企画され、シンポジウムとして計 73 セッションを実施した。

一般演題の口頭発表として、一般で 211 題、優秀演題エントリーに 166 題の計 377 題の応募と、ポスター発表に 1,109 題の応募があった。優秀演題候補 166 題から、1 次審査(8 名の審査員による高スコア順)により 40 題を選出し、学会 1 日目の 2 次審査によって優秀演題 8 題を決定した。口頭発表応募 377 題を審査の結果すべて採択したが、1 演題で取り消しがあり、376 題をキーワード別に 3 日間 75 セッションに分けた(要旨集記載)。ポスター発表応募 1,109 題のうち 2 題を不採択とし、1,107 題を採択した。このうち 4 題で演題取り消しがあり、ポスター発表数は 1,103 題であった(要旨集記載)。International Session では口頭に 19 題の応募があり、国際交流委員会での審査の結果、2 セッション枠の 10 題を口頭発表とし、ポスター発表は応募のあった 19 題と口頭からの 9 題を合わせて 28 題採択している。口頭発表の会員発表 9 題(1 名海外非会員)を優秀演題候補として、学会 1 日目に 2 次審査を行い、優秀演題 2 題を決定した。

単位認定に関しては、医療薬学専門薬剤師、がん専門薬剤師、薬物療法専門薬剤師、地域薬学ケア専門薬剤師の単位認定を行い、日病薬病院薬学認定薬剤師制度に関しては、現地参加、オンデマンド配信の両方でセッション毎に単位を取得できるようにした。現地参加ではオンデマンド配信と同様に、セッション毎に入退室管理を行い、QR コードの読み取り以外に、入退室の控えとして入退室記録を申請者のメールアドレスに自動送信するシステムを構築し、QR コードによる入退室管理に関するトラブル時には、証明となるメールを提示して頂く対策をとった。

日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度の集合研修単位は、現地参加者が対象で PECS の QR コードを用いて取得できるようになっていたが、本年会でこのシステムを用いて読み込んだ PC 内参加者ファイルデータがアップロードできないトラブル(原因不明)が生じ、単位申請者にご迷惑をおかけした。またオンデマンド配信を 2023 年 11 月 21 日から開始したが、1 日平均延べ 15,000 前後のアクセス件数と想定以上にアクセスが集中し、開始早々にサーバー障害を起し閲覧できない状況となった。この件も聴講者にご迷惑をおかけした。現地開催でのトラブルはある程度、臨機応変に対応できることも、システム障害やエラーの場合、原因解明や対応に時間を要する。学会の運用方法が、単位シール配布やスライド映写などのアナログからデジタルへと変化してきたことに伴い、新たに生じて

くるシステム障害への対応や防止策について検討しておく必要があると考える。こうしたトラブルはあったものの年會を盛會に終えることができたことに、ご協賛頂いた企業をはじめ、年會運営に携わって頂いたコンベンション、組織委員・実行委員の皆様、ご参加頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

9. 医療薬学公開シンポジウム

(1) 第89回医療薬学公開シンポジウム

チーム医療における今後の薬剤師業務展開の可能性を探る

開催日 2023年11月18日(土)

開催形式 現地開催

特別講演

座長：能代厚生医療センター 薬剤科 薬剤長 平泉 達哉

「多職種連携・薬業連携・地域連携を考慮した薬剤師業務展開の可能性」

東北大学病院 薬剤部 准教授 小原 拓

シンポジウム

座長：由利組合総合病院 薬剤科 副薬剤長 遠藤 征裕

：秋田県立循環器・脳脊髄センター 薬剤部 部長 八代 佳子

「周術期における薬学的管理 ～当院の現状と展望～」

鶴岡市立荘内病院 薬局 渡部 秀

「急性期脳卒中における救急での薬剤師のかかわり」

秋田県立循環器・脳脊髄センター 薬剤部 木元 健寛

「褥瘡対策における薬剤師の関わり」

東北大学病院 薬剤部 武藤 理恵

「心不全における連携の重要性」

仙台循環器病センター 薬剤部 部長 千葉 貴志

「腎臓病薬物療法を通して進める地域医療への貢献と取り組み」

秋田大学医学部附属病院 腎疾患先端医療センター 藤山 信弘

◆参加人数 64名

(2) 第90回医療薬学公開シンポジウム

地域医療を“くすり”から支える・課題に挑む

開催日 2023年11月18日(土)

開催形式 現地開催

特別講演 難病・がんへの挑戦

講演1

座長：自治医科大学附属病院 薬剤部 吉岡 崇幸

「小児神経難病に対する遺伝子治療の開発と実践」

自治医科大学小児科学教授・とちぎ子ども医療センター長 小坂 仁

講演2

座長：自治医科大学附属病院 薬剤部 中澤 寛仁

「がん診療における薬剤師の積極的参画」

国立がん研究センター 中央病院 薬剤部長 橋本 浩伸

シンポジウム 1

座長：自治医科大学附属病院 薬剤部 釜井 聡子・今井 靖

「救命救急・集中治療の現状と薬剤師の関与」

Keynote Lecture：自治医科大学 救急部 教授 間藤 卓

シンポジスト：済生会宇都宮病院 薬剤部 半田 卓

獨協医科大学 薬剤部 田城 泰則

那須赤十字病院 薬剤部 倉井 由香

シンポジウム 2

座長：自治医科大学附属病院 薬剤部 荒川 昌史・片野 昌宏

「地域医療を支える薬剤師業務の現状と展望」

Keynote Lecture：国分寺さくらクリニック 院長 村田 光延

つるかめ診療所 所長 鶴岡 優子

シンポジスト：中央薬局国分寺店 管理薬剤師 佐藤 充

自治医科大学附属病院看護部・患者サポートセンター

副センター長 亀田 美智子

新小山市民病院 薬剤部・患者支援センター 辻村 由理

◆参加人数 63名

(3) 第91回医療薬学公開シンポジウム

臨床研究に一步踏み出そう～薬剤師の楽しみを知るために～

開催日 2023年11月18日(土)

開催形式 現地開催

特別講演

座長：長崎大学病院 薬剤部 教授・薬剤部長 大山 要

「データサイエンスを活用して先進的な医療薬学研究」

岡山大学病院 薬剤部 教授・薬剤部長 座間味 義人

シンポジウム

座長：長崎国際大学大学院薬学研究科薬学部薬学科医療情報学研究室 教授 室 高広

：長崎県薬剤師会 専務理事 秋吉 隆治

「ICTで進化する薬剤師と臨床研究 -今、私たちに何ができるか?-」

福岡大学薬学部 生体機能制御学 助教 牛尾 聡一郎

「がん薬物療法に伴う有害事象の事前予測および防止に向けた調査研究」

長崎大学病院 安全管理部薬剤師 GRM 橋詰 淳哉

「保険薬剤師が研究に一步踏み出した理由」

一般社団法人都市北諸県郡薬剤師会 かかりつけ薬局支援センター 吉田啓太郎

「薬局におけるあじさいネットの活用状況および有用性の調査」

光晴会病院 薬剤科 薬剤科長 成末 まさみ

◆参加人数 35名

(4) 第92回医療薬学公開シンポジウム

新しい時代の臨床薬学教育に向けて

開催日 2023年12月2日(土)

開催形式 現地開催

メディカルセミナー(共催:ノバルティスファーマ株式会社)

座長:香川大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 小坂 信二

「生命の進化から考えるナトリウム利尿ペプチドの薬理学的特徴」

香川大学医学部 医学部長・薬理学 教授 西山 成

教育講演

座長:香川大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 小坂 信二

「新しい時代の臨床薬学教育を考える」

京都薬科大学 医療薬科学系 臨床薬剤疫学分野 教授 村木 優一

シンポジウム

座長:香川大学医学部附属病院 副薬剤部長 田中 裕章

徳島文理大学 香川薬学部 教授 芳地 一

「薬学生実務実習～薬局での取り組み～」

香川県薬剤師会 薬学生実務実習受け入れ委員会 森 みさ子

「新時代の臨床薬学教育における視点と思考の変更ポイント」

徳島文理大学 香川薬学部 准教授 川添 哲嗣

「DX時代の病院実務実習」

岡山大学病院 薬剤部 教授・薬剤部長 座間味 義人

総合討論

◆参加人数 66名

10. 臨床研究セミナー

第3回臨床研究セミナー 『観察研究を始めてみよう』

開催日 2023年4月16日(日)

会場 大崎ブライツコアホール、WEB開催(ライブ配信)併用

基調講演1

座長:中村 任(大阪医科薬科大学薬学部)

「疫学ってなに?比較ってなに?」

漆原 尚巳(慶應義塾大学薬学部・教授)

教育講演1

座長:矢野 貴久(島根大学医学部附属病院薬剤部)

「私の小規模な失敗～労力を無駄にしないための臨床研究テーマの選び方～」

藤岡 一路(神戸大学医学部附属病院小児科・准教授)

教育講演2

座長:鈴木 貴明(千葉大学医学部附属病院薬剤部)

「真実を見出すためにデータを正しく評価・解析・解釈しよう」

小原 拓(東北大学東北メディカル・メガバンク機構・准教授)

シンポジウム「身近なデータを活用した臨床研究 ～私の実践例:苦労と工夫～」

座長:石崎 純子(金沢大学医薬保健研究域薬学系)

：米澤 淳（慶應義塾大学薬学部）

「NDB オープンデータの効果的な活用方法」

浜田 将太（医療経済研究機構研究部・副部長）

「薬局薬剤師の視点で取り組む臨床研究

－腎機能低下時の医薬品適正使用推進を中心に－

近藤 悠希（熊本大学大学院生命科学研究部・准教授）

「市中病院における臨床研究に必要なコトとは」

猪狩 賢蔵（医療法人社団城東桐和会 タムス瑞江病院）

「薬局薬剤師の臨床研究が患者を取り巻く環境を改善する」

川名 三知代（ココカラファイン薬局砵店）

◆参加人数 254名（現地参加：29名、WEB参加：225名）

1 1. 第6回フレッシュャーズ・カンファランス

開催日 2023年6月11日（日）

会場 同志社女子大学 京田辺キャンパス、WEB開催（ライブ配信）併用

演題数 口頭発表48題、ポスター発表52題

教育講演 「臨床現場での気づきから始まる研究こそ価値がある」

北海道大学大学院医学研究院血液内科学教室 教授 豊嶋 崇徳

◆参加人数 330名（現地参加：223名、WEB参加：107名）

1 2. がん専門薬剤師集中教育講座

令和5年度がん専門薬剤師集中教育講座（WEB開催（オンデマンド配信））

配信期間 2023年11月1日（水）～12月22日（金）

・プログラム

【必須】

「がん薬物療法の臨床薬理」立命館大学 薬学部 准教授 野田 哲史

「支持療法」日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部 技術長補佐 葉山 達也

「がん薬物療法の臨床試験」名古屋大学医学部附属病院 化学療法部 教授 安藤 雄一

「安全ながん薬物療法の実践」がん研究会有明病院 薬剤部 チーフ 横川 貴志

「緩和医療とがん疼痛治療」東北大学大学院医学系研究科 緩和医療学分野 講師 田上 恵太

「がんの発生、転移、薬剤耐性」がん研究会 がん化学療法センター 所長 藤田 直也

「悪性リンパ腫の薬物療法」京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻

教授 錦織 桃子

「胃がんの薬物療法」九州大学大学院医学研究院 消化器・総合外科 准教授 沖 英次

「肺がんの薬物療法」国立病院機構四国がんセンター 臨床研究センター

臨床研究センター長 上月 稔幸

「乳がんの薬物療法」がん研究会有明病院 院長補佐 高野 利実

「大腸がんの薬物療法」静岡県立静岡がんセンター 消化器内科 部長 山崎 健太郎

「肝臓、胆道がんの薬物療法」国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科 科長 池田 公史

「膵臓がんの薬物療法」国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科 医員 大場 彬博

「泌尿器がん」九州大学大学院医学研究院 泌尿器科学分野 准教授 猪口 淳一

「婦人科領域がん」がん研究会有明病院 婦人科 副部長 温泉川 真由

【選択】

「白血病」金沢大学医薬保健研究域医学系 血液内科学 教授 宮本 敏浩

「多発性骨髄腫」埼玉医科大学総合医療センター 血液内科 客員教授 木崎 昌弘

「皮膚がんの薬物療法」国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科 科長 山崎 直也

「頭頸部がんの薬物療法」国立がん研究センター東病院 頭頸部内科 頭頸部内科長 田原 信

「放射線腫瘍学」東京都健康長寿医療センター 放射線治療科 部長 角 美奈子

「がんゲノム医療」慶應義塾大学医学部 腫瘍センター ゲノム医療ユニット 教授 西原 広史

「食道がん」国立がん研究センター東病院 消化管内科 医長 小島 隆嗣

◆参加人数 2,400名

1.3. がん専門薬剤師全体会議

第10回がん専門薬剤師全体会議

開催日 2023年5月13日(土)

会場 札幌(ACU札幌 大研修室1614)・WEB開催(ライブ配信)併用

セッション1

「連携充実にかかる加算の現状と課題」

座長：鮎原 秀明、奥田 泰考、三宅 知宏

『三方よし』と『先従(まずかいよ)隗(りはじ)始(めよ)』の精神でとりくんだ
薬業連携と連携充実加算」

吉野 真樹(新潟県立新発田病院)

「連携充実にかかる加算の現状と課題 に関する事前アンケート結果報告」

奥田 泰考(自治医科大学附属病院)

「働く場所で異なる、がん専門薬剤師の視点」

中村 俊貴(あけぼの薬局メディカル店)

「薬局薬剤師が専門資格を取得したからこそできること・やるべきこと」

竜田 都加(ココカラファイン薬局ミタス伊勢店)

ランチョンセミナー(中外製薬株式会社 共催)

座長：佐野 元彦(星薬科大学)

「抗がん剤治療中の心不全」

大谷 規彰(国立病院機構 九州医療センター 循環器内科)

セッション2

「後進育成の肴(サカナ)になる話」

座長：池末 裕明、組橋 由記、原田 知彦

シンポジスト：池末 裕明(神戸市立医療センター中央市民病院)

伊勢 雄也(日本医科大学病院)

吉村 知哲(岐阜薬科大学)

セッション3

「徹底議論でガイドラインを読み解く：がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン2022」

座長：大橋 養賢、谷川原 祐介、松尾 宏一

パネリスト：安藤 雄一(名古屋大学医学部附属病院 化学療法部)

松原 雄 (京都大学大学院医学系研究科 腎臓内科学講座)

イブニングセミナー (日本化薬株式会社 共催)

座長: 池田 龍二 (宮崎大学医学部附属病院)

「観察研究のデータ解析

～背景の異なるデータで薬剤効果を比較する際の統計チェックポイント～」

新谷 歩 (大阪公立大学大学院医学研究科医療統計学)

◆参加人数 484名 (現地参加: 66名、WEB参加: 418名)

1 4. がん介入症例の書き方スキルアップセミナー

第2回がん介入症例の書き方スキルアップセミナー

開催日 2023年2月11日(土)

開催形式 WEB開催(ライブ配信)

「症例書き方のポイントについて」

がん専門薬剤師認定委員会委員長 池田 龍二 (宮崎大学医学部附属病院 薬剤部)

がん専門薬剤師認定優秀症例受賞者 竹中 翔也 (大垣市民病院 薬剤部)

グループワーク

メディカルセミナー (共催 日本化薬株式会社)

「高齢者におけるがん薬物療法について」

内山 将伸 先生 (福岡大学病院 薬剤部)

グループワーク

症例発表

◆参加人数 26名

1 5. がん専門薬剤師アドバンスト研修会

第9回がん専門薬剤師アドバンスト研修会

開催日 2023年2月25日(土)

開催形式 WEB開催(ライブ配信)

症例検討1「乳がん」

講師: 徳永 えり子 (独立行政法人国立病院機構九州がんセンター 乳腺科部長)

衛藤 智章 (独立行政法人国立病院機構九州がんセンター 薬剤部)

メディカルセミナー (共催 中外製薬株式会社)

座長: 有馬 純子 (鹿児島市立病院 薬剤部)

「クリニカルクエスチョンを臨床研究へ発展させる！」

演者: 藤井 宏典 (岐阜大学医学部附属病院)

症例検討2「消化器がん」

講師: 伊東 守 (九州大学病院 遺伝子細胞療法部 臨床助教)

南 晴奈 (九州大学病院 薬剤部)

◆参加人数 35名

1 6. 薬物療法専門薬剤師集中講義

2023年専門薬剤師認定取得のための薬物療法集中講義 (WEB開催 (オンデマンド配信))

配信期間 2023年7月3日(月)～8月31日(木)

・プログラム

「大腸がん」九州大学病院薬剤部 秦 晃二郎

「子宮内膜症・月経困難症」九州大学大学院医学研究院 生殖病態生理学分野
教授 加藤 聖子

「甲状腺機能異常」群馬大学大学院医学系研究科 内分泌代謝内科学分野 講師 堀口 和彦

「免疫性血小板減少症(特発性血小板減少性紫斑病)」大阪大学医学部附属病院
血液・腫瘍内科 教授 輸血部長 柏木 浩和

「重症筋無力症」大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 生体病態情報科学講座
臨床神経生理学 教授 高橋 正紀

「神経因性膀胱・過活動膀胱」山梨大学医学部泌尿器科学講座 教授 三井 貴彦

「統合失調症」神戸学院大学 薬学部 講師 江角 悟

「高血圧症」広島大学原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究部門
再生医療開発研究分野 准教授 丸橋 達也

「間質性肺疾患」徳島大学大学院医歯薬学研究部 呼吸器・膠原病内科学分野
准教授 佐藤 正大

「過敏性腸症候群」京都府立医科大学 医療フロンティア展開学・消化器内科
准教授 高木 智久

「乾癬」札幌皮膚科クリニック 院長 安部 正敏

「敗血症」筑波大学附属病院 救急・集中治療部、高度救命救急センター
救急・集中治療部副部長 高度救命救急センター長 榎本 有希

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」徳島大学病院
総合臨床研究センター 特任助教 八木 健太

◆参加人数 802名

17. 関係団体への協力(本学会役員)

- 1) 一般社団法人日本薬系学会連合 山本康次郎、石井伊都子：理事、奥田真弘：副会長
- 2) 一般社団法人薬剤師認定制度認証機構 奥田真弘：理事
- 3) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査制度への協力学会として登録
矢野育子：統括責任者
- 4) 文部科学省・薬学系人材養成の在り方に関する検討会 奥田真弘：委員

〔2〕 組織運営の部

2023-2024 年度 代議員の選出

2022 年 10 月、2023-2024 年度代議員選挙が公示され 336 名の定数に対して 350 名より立候補があった。代議員選出規程に基づき代議員候補者推薦委員会により 34 名の推薦代議員候補者を加えた 384 名の被選挙人を対象とした投票を実施し、当選した 336 名が 2023 年 3 月 18 日開催の第 15 回定時社員総会の終結後より任期 2 年に亘って就任した。

事業報告附属明細書

(2023年1月1日～2023年12月31日)

1. 役員 (2022年3月18日第14回定時社員総会終了後から就任)

会頭

山本 康次郎 群馬大学医学部附属病院

副会頭

石井 伊都子 千葉大学医学部附属病院

寺田 智祐 京都大学医学部附属病院

百瀬 泰行

理事

池田 龍二 宮崎大学医学部附属病院

石澤 啓介 徳島大学病院

伊藤 清美 武蔵野大学

齋藤 秀之 熊本大学病院

佐藤 淳子 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

佐野 俊治 MSD 株式会社

関根 祐子 千葉大学

田崎 嘉一 旭川医科大学病院

富岡 佳久 東北大学大学院薬学研究科

豊見 敦 南海老園豊見薬局

中村 敏明 大阪医科薬科大学

花輪 剛久 東京理科大学

濱浦 健司 シミックホールディングス株式会社

宮崎 長一郎 有限会社宮崎薬局

村木 優一 京都薬科大学

矢野 育子 神戸大学医学部附属病院

監事

奥田 真弘 大阪大学医学部附属病院

望月 眞弓 元 慶應義塾大学

安原 真人 帝京大学

2. 事務局 (2023年12月31日現在)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目12-15 日本薬学会長井記念館7階

事務局長1名、職員4名、契約職員2名、派遣職員1名

以上、敬称略